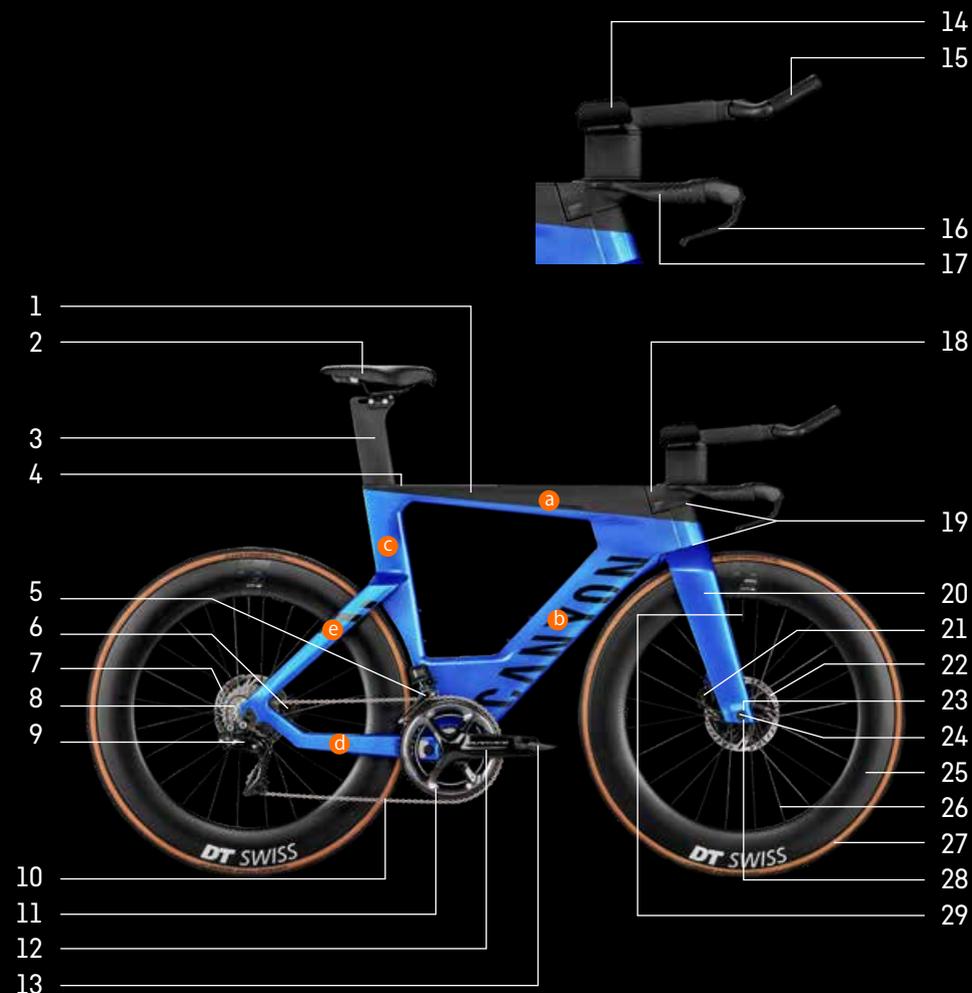


# マニュアル

## SPEEDMAX取扱説明書



これはCanyon Speedmax用の追加説明書です。Www.canyon.com にあるCanyonロードバイク取扱説明書も必ずお読みください。



**重要:**組立方法は7頁/初めて乗車する前に必ず2~6頁をお読みください。



お客様がお買い上げになった自転車および本取扱説明書は、EN ISO規格4210-2の安全基準に適合しています。

## 各部品の名称

- |    |                |    |             |
|----|----------------|----|-------------|
| 1  | フレーム:          | 14 | アームレスト      |
|    | a トップチューブ      | 15 | エアロハンドル握り位置 |
|    | b ダウンチューブ      | 16 | ブレーキレバー     |
|    | c シートチューブ      | 17 | ベースバー握り位置   |
|    | d チェーンステイ      | 18 | ステム         |
|    | e シートステイ       | 19 | ステアリングヘッド   |
| 2  | サドル            | 20 | フォーク        |
| 3  | シートポスト         | 21 | フロントブレーキ    |
| 4  | シートポストクランプのボルト | 22 | ブレーキディスク    |
| 5  | フロントディレイラー     | 23 | ドロップアウト     |
| 6  | リアブレーキ         |    | ホイール:       |
| 7  | ブレーキディスク       | 24 | スルーアクスル     |
| 8  | スプロケット         | 25 | リム          |
| 9  | リアディレイラー       | 26 | スポーク        |
| 10 | チェーン           | 27 | タイヤ         |
| 11 | チェーンリング        | 28 | ハブ          |
| 12 | クランクセット        | 29 | バルブ         |
| 13 | ペダル            |    |             |

## 目次

- |    |                                |
|----|--------------------------------|
| 2  | ご挨拶                            |
| 4  | 意図される使用                        |
| 6  | 初めて乗車する前に                      |
| 6  | 乗車前に必ず確認                       |
| 6  | 転倒してしまったら                      |
| 7  | BikeGuardから取り出して組み立てる          |
| 23 | トライアスロン・タイムトライアルバイクに関する注意事項    |
| 23 | タイムトライアル用のバーエンドシフター            |
| 25 | カーボンホイールに関する注意事項               |
| 26 | Canyon Speedmaxの身体に合わせたフィッティング |
| 27 | 適正なサドルの高さ                      |
| 29 | サドル・ハンドル間距離とサドルの調整             |
| 32 | 適正なハンドルの高さ                     |
| 33 | エクステンションとアームレスト                |
| 38 | ステアリングヘッド                      |
| 40 | インテグレートッドハイドレーションシステム          |
| 42 | インテグレートッドトップチューブベントーボックス       |
| 43 | インテグレートッドボトムブラケットストレージ         |
| 44 | その他のアクセサリ                      |
| 45 | 瑕疵担保責任                         |
| 47 | 保証                             |
| 48 | クラッシュリプレースメント                  |

## 本取扱説明書について

下記のマークには特別な意味がありますのでご注意ください。

それぞれのマークは、次のような危険を表しています。危険性についての説明がなくてもこのマークを見たら必ず注意が必要です。

 このマークは、指示に従って行動しなかったり、適切な予防対策をとらなかったりした場合に、生命や健康に対する危険が生じる可能性があることを意味します。

 このマークは、不適切な行動により、物を破損したり、環境に害を与えたりする恐れがあることを意味します。

 このマークは、製品の取扱や取扱説明書の各項目に関する、特に注意が必要な情報であることを意味します。

これはCanyon Speedmax用の追加説明書です。この目次に黒い色で書かれている項目は、お買い上げのCanyon Speedmaxに関する内容で、Canyonロードバイク取扱説明書を見てもこれ以上の説明はありません。この目次で灰色の項目は、必ず[www.canyon.com](http://www.canyon.com)にあるCanyonロードバイク取扱説明書を参照する必要があります。

**重要:**組立方法は7頁/初めて乗車する前に必ず2~6頁をお読みください。

### CANYONの製品をお買い上げ頂きまして まことにありがとうございます。

Canyonロードバイク取扱説明書に加えてご用意したこの追加説明書には、お買い上げのCanyon Speedmaxの取り扱いにあたって役に立つ情報を、従来のロードバイクとの違いを考慮して多数まとめてあります。

本書の各項目は、ロードバイク取扱説明書の対応する項目を補足ないし置き換える内容となっています。この追加説明書とロードバイク取扱説明書を合わせてよく読んでから

- ▶ 「**BikeGuardから取り出して組み立てる**」の項にある組立方法の解説通りに作業してください。
- ▶ ロードバイク取扱説明書の「**初めて乗車する前に**」の項にある注意事項を守ってください。
- ▶ 「**意図される使用**」の項を読んで、お買い上げになったSpeedmaxがどのような用途のためのものか、また**最大許容総重量** (Speedmax・ライダー体重・ウェア・携行品) がどれくらいかを確認してください。
- ▶ 乗車する前には必ず**最低限の機能点検**を行ってください。機能点検の方法については、ロードバイク取扱説明書の「**乗車前に必ず確認**」の項をご覧ください。この点検でCanyon Speedmaxに少しでも問題があった場合には、絶対に乗らないでください。
- ▶ また、Speedmaxに添付されている**FITTING KIT**マニュアルも読んでください。

整備や修理の作業を行う場合には、記載されている方法や注意事項がCanyon Speedmaxのみに関するものであり、他の自転車には適用できない点に常にご注意願います。

多数の異なる仕様が存在し、モデルチェンジも頻繁に行われるため、記載されている作業内容が完全なものでない可能性があります。また、コンポーネントメーカーのホームページか [www.canyon.com](http://www.canyon.com) に掲載されている各種コンポーネントの説明書もご覧ください。



記載されている解説やヒントは、作業を実施する人の経験や手先の器用さ、また使用する工具などによっては、さらなる補足が必要であったり、他にも(特殊)工具や、記載されていない手順が必要となる可能性がありますので、ご注意ください。

弊社ホームページ [www.canyon.com](http://www.canyon.com) には、簡単な修理や整備の作業を説明する動画も多数掲載されていますのでご利用ください。ご自分の安全のためにも、無理な作業はしないようにしてください。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットラインかお問合せフォームをご利用の上お問い合わせください。

**以下の点にご注意ください。**この追加取扱説明書だけで、自転車整備士の技能を習得することはできません。さまざまな自転車と各種コンポーネントの無数にある組合せを、一冊の説明書で網羅することはできません。

そのため本説明書には、お買い上げになったCanyon Speedmaxと一般的なコンポーネントのみについて、最も重要性の高い注意事項や警告事項を掲載してあります。またこの説明書は、Canyonのフレームセットから自転車に完全に自作するためのものでもありません。

この説明書を読んでも、自転車の乗り方を覚えることはできません。よって本説明書には、お買い上げになった自転車の説明と、最も重要性の高い注意事項や警告事項のみが掲載されています。ただし本説明書で、自転車の乗り方や交通規則を学ぶことはできません。

自転車に乗る時には、その行為には危険が伴うこと、また、自転車に乗る者が責任を持って自分の自転車をコントロールしなくてはならないことを忘れてはいけません。

自転車での走行も、負傷の可能性のあるスポーツであることには変わりありません。自転車乗車時には、そのような危険があることを認識し、承知の上で乗車する必要があります。

自転車には、自動車のABSやボディ、エアバッグのような安全装置がないということをお忘れなく。

足りない説明書がありますか?参考となる各種の説明書は、[www.canyon.com](http://www.canyon.com) にも掲載されていますのでご確認ください。

ですから、走行時には常に注意を怠らないようにして、人に迷惑をかけないようにしましょう。薬品や麻薬服用時および飲酒時、また疲労時の走行は厳禁です。二人乗りや手放し運転も禁止です。

#### 発行人:

Canyon Bicycles GmbH  
Karl-Tesche-Straße 12  
D-56073 Koblenz

サービスホットライン:  
(+81) 050-3786-8496

お問合せ:[www.canyon.com/contact](http://www.canyon.com/contact)

#### 文、コンセプト、写真、制作:

Zedler – Institut für Fahrradtechnik  
und -Sicherheit GmbH

[www.zedler.de](http://www.zedler.de)  
更新: 2020年10月, 第1版

© 著者の書面による事前の承認なき転載・複製、翻訳は、それが一部または電子メディアであっても、その他の形での使用と同様に固くお断りします。

最後に皆さんに守って頂きたい注意事項がいくつかあります。自転車に乗る時には、ほかの人に危険が及ばないように注意してください。必ず適切な装備で自転車に乗りましょう。自分のサイズに合った自転車用ヘルメットやサイクリング用眼鏡、しっかりとした靴、自転車に適した目を引く明るい色のウェアなどが最低限必要です。

Canyonバイクで最高の自転車ライフをお楽しみください。 チーム一同

 本書は、自転車をパーツから組んだり、修理したりするための解説書ではありません。技術仕様の一部が、本取扱説明書に記載の内容および写真とは異なることがあります。本取扱説明書は、EN ISO規格4210-2の基準に適合しています。本説明書には欧州法が適用されます。

 エアロハンドルで走行時は、停止するまでの距離が長くなりますのでご注意ください。ブレーキレバーがすぐ手の届く距離にありません。

 弊社ホームページ [www.canyon.com](http://www.canyon.com) にも是非お越しください。ニュースやお知らせ、役に立つヒントや販売代理店に関する情報が掲載されています。

 ご自分の安全のためにも、無理な組立や調整作業はしないようにしてください。自信がない場合には、弊社のホットライン (+81) 050-3786-8496 か、[www.canyon.com](http://www.canyon.com) にあるお問合せフォームをご利用ください。

## 意図される使用

さまざまなタイプの自転車の用途を定義するために、弊社の自転車はいくつかの категорияに分類されています。このような分類を行う目的は、すでに自転車開発の段階でそれぞれの負荷に合わせたテスト要件を規定することで、完成した製品をお客様が使用する際に最大限の安全性を確保することにあります。

これはすなわち、意図される使用の範囲を超えて自転車を使用しないことが極めて重要であることを意味し、そうしないとその自転車の負荷限度を超えフレームやその他のコンポーネントが破損する可能性があります。その結果、重大な転倒事故につながる恐れがあります。

最大許容総重量の**120kg**を超えないようにしてください。

最大許容総重量は次のように計算します。

- Speedmaxの重量 (kg)
- + ライダーの体重 (kg)
- + 携行品の重量 (リュックサック、バッグ等)
- = 最大許容総重量 (kg)



⚠️ Canyon Speedmaxは、3本ローラーのサイクルトレーナーで使用できます。また、バイクのリアアクスルを固定する方式で、サイクルトレーナーのメーカーが用意したアクセサリ(専用アクスルなど)を使用するサイクルトレーナーでも使用可能です。サイクルトレーナーがSpeedmaxに適しているかどうか分からない場合には、弊社のホットライン (+81) 050-3786-8496 までお問い合わせください。

⚠️ チャイルドシートの使用は一切認められていません。

⚠️ チャイルドトレーラーの牽引は一切認められていません。

お客様のSpeedmaxがどのカテゴリーに含まれるかを必ず確認してください。お客様のSpeedmaxがどのカテゴリーに属するかは、フレームに表示されている以下のマークを見ればわかります。そのカテゴリーによって、走行することのできる路面の種類やSpeedmaxに適した走行形態がわかります。

Speedmaxのカテゴリーがよくわからない場合には、弊社のホットラインにご遠慮なくお問い合わせください。



### 条件1

カテゴリー1の自転車は、舗装された道を走行するために設計されており、車輪が常に路面に接している状態にあります。主にロードバイクで、ドロップハンドルやストレートハンドルを備えたものがあり、トライアスロンバイクやタイムトライアルバイクなども含まれます。

最大許容総重量はライダー・携行品・自転車を合わせて**120kg**です。この最大許容総重量は、使用されているコンポーネントのメーカーの推奨値によって、さらに制限されることがあります。

⚠️ 断面積が大きなフレームチューブは、通常の自転車キャリアに固定すると、クランプによって押しつぶされてしまう恐れがあります。カーボンフレームはそのまま使い続けると突然折れる危険があり、アルミ製フレームはすぐにへこんでしまいます。専用のキャリアが自動車用品店にあります。

⚠️ 荷台を取り付けることはできません。荷物を運びたい場合には、専用のサイクリング用リュックサックを使用するのが唯一の方法です。



## 初めて乗車する前に

タイムトライアルバイクやトライアスロンバイクに乗った経験がありますか?このような自転車はスポーツ器具であり、乗りこなすには慣れや訓練が必要です。まず人通りの少ない場所で新しい自転車に慣れてから、徐々にその走行性を試してみるようにしましょう。テクニク講座に参加しましょう。詳しくは [www.canyon.com](http://www.canyon.com) をご覧ください。

新しいCanyon Speedmaxに初めて乗車する前に必ず、ロードバイク取扱説明書の「初めて乗車する前に」の項を読んでください。

## 乗車前に必ず確認

初めて乗車する前には、ロードバイク取扱説明書の「乗車前に必ず確認」の項目も読んで、記載されている点検作業を確実に行ってください。

## 転倒してしまったら

転倒してしまった時のためにロードバイク取扱説明書の「転倒してしまったら」の項を読んでおきましょう。新しいSpeedmaxに乗っている時に転倒した場合には、「転倒してしまったら」の項目に記載されている点検作業を行ってください。



**⚡** エアロバー(トライアスロン用ハンドル)を握って走行していると、他の握り位置よりもブレーキレバーまでの距離が遠くなります。したがって、停止するまでの距離も長くなります。常に危険の予測に努め、停止するまでの距離が長くなることを計算に入れて走りましょう。

**⚡** ブレーキレバーの配置は国により異なることがありますのでご注意ください。どのブレーキがどのレバーで動作するかを確認しましょう。慣れている配置と異なる場合には、改造してもらうこともできます。

**⚡** Canyonのタイムトライアル・トライアスロンバイクは、ハイエンドのスポーツ用製品です。最高の技術力を駆使した軽量構造が採用されています。あなたも、自転車の取扱のプロになってください。誤った使用や、不適切な組立、不十分な整備などは、レース用マシンである自転車の安全性を損なうことがあります。**事故の危険があります。**

**⚡** クイックリリースが正しく閉じていないと、自転車から部品が外れてしまう恐れがあります。**転倒の危険があります。**

## BIKEGUARDから取り出して組み立てる

自転車をBikeGuardから取り出して組み立てるのは難しくありませんが、慎重かつ入念に作業を進めてください。不適切な組み立ては、自転車の安全性を損なう恐れがあります。

まず、お買い上げになったCanyon Speedmaxには、どのようなパーツがあるかを見てみましょう。

本書の表紙についている見開きページを広げてみてください。Canyon Speedmaxの写真に主要なパーツの名称が書き込まれています。このページを広げたままで、本書を読み進んでください。そうすれば、各項の説明にでてくるパーツがどれのことだかすぐわかります。



まず、BikeGuardを開封しましょう。

箱を開けるにはカーペット用カッターのような刃先の短いカッターを使ってください。自転車本体にはカッターを使用しないでください。

**⚡** カッターを使って作業をする際には、パーツに傷をつけたり、またご自分が怪我をしないようにご注意ください。必ず、自分およびパーツから離れた方向に向けてカッターを動かしてください。

### BIKEGUARDの同梱品を確認



BikeGuardの中にはすべてのパーツが取り付けられたフレームと、それぞれ箱に入った別添の前輪・後輪(ホイールバッグ入りの場合あり)、小型のパーツの入った箱、交換用ヘッド付Canyonトルクレンチ・Canyonアッセンブリーペースト・SPEED-MAX取扱説明書・ロードバイク取扱説明書・FITTING KITマニュアルの他、場合によりコンポーネントやアクセサリの取扱説明書が収められたツールケースが入っています。

**i** せっかくの新しいCanyon Speedmaxですから、BikeGuardから出して組み立てるのも誰かに手伝ってもらって一緒に楽しみながら作業を進めましょう。

**i** 自転車作業スタンドを使うか、誰かに手伝ってもらうと、簡単かつ確実に自転車を組み立てることができます。

### CANYON SPEEDMAXの組立に関する一般事項

お買い上げになったSpeedmaxは、工場で完全に組立を終了し、調整を行ってあります。以下に解説する手順に従って自転車を組み立てれば、調整を行わなくても、支障なく機能するはずですが、

以下に組み立て方法をごく簡単に説明します。自転車の組み立てに詳しくない方や、あまり経験のない方は、ロードバイク取扱説明書の詳しい解説を読んでください。コンポーネントメーカーの説明書とFITTING KITマニュアルもご確認ください。

まず、お買い上げになったSpeedmaxには、どのようなパーツがあるかを見てみましょう。SPEEDMAX取扱説明書の表紙についている見開きページを広げてみてください。Speedmaxの写真に主要なパーツの名称が書き込まれています。

このページを広げたままで、本書を読み進んでください。そうすれば、各項の説明にでてくるパーツがどれのことだかすぐにわかります。

初めて乗車する前には必ず、「乗車前に必ず確認」の項目およびロードバイク取扱説明書に記載されている点検作業を行ってください。

**!** 組み立てる時に、Speedmaxのフレームのチューブやカーボン製のシートポストを自転車作業スタンドに固定しないでください。フレームを内側から3点で固定する作業台やフォークキャリアエンドのドロップアウトを固定する作業台を使用するか、組み立てる間誰かにSpeedmaxを支えてもらうのが最適な方法です。

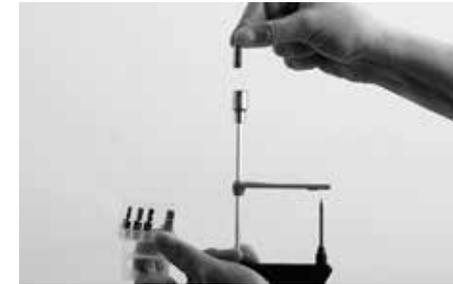
### CANYONトルクレンチの使用



部品同士を確実に固定するためには、トルクレンチの使用が不可欠であるとCanyonでは考えています。そのため、トルクレンチを同梱しました。

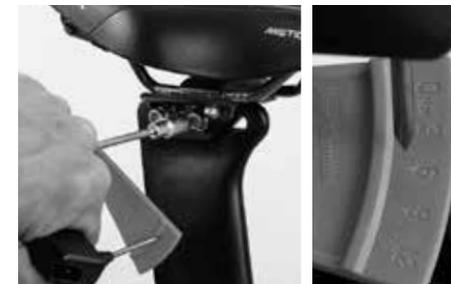


ボルトの締め付けが弱すぎたり、強すぎたりすると、部品が外れたり破損したりして事故の原因となる恐れがあります。それぞれのパーツに書かれているCanyon指定の締め付けトルクを厳密に守ってください。



サイズの合う交換用ヘッドをCanyonトルクレンチの受けに差し込みます。

六角棒レンチをボルトの穴にしっかりと差し込みます。



Canyonトルクレンチの取っ手をゆっくりと廻します。ボルトが締まるにつれて、針が目盛りの上を動いてゆきます。針が所定の締め付けトルクを示す目盛に達したら廻すのを止めてください。

**!** 組み立てには、BikeGuardに同梱されているCanyonトルクレンチを使用してください。

### CANYONアッセンブリーペーストの使用



カーボン製の部品は、締め付け力が強すぎることによる損傷を特に受けやすい性質があります。Canyonアッセンブリーペーストを使用すると、表面同士の密着度を高めることにより、締め付けに必要な力を最大30%低くすることができます。



これは特に、ハンドルとステムやステアリングコラムとステム、シートポストとシートチューブなどの三箇所締め付けに重要で、締め付け力が強すぎると部品が破損する恐れがあり、また保証が受けられなくなります。

Canyonアッセンブリーペーストを使用することで締め付け力を低下させ、カーボン繊維の破損を予防することができます。また、締め付け部から異音がすることを防ぐ効果もあります。

## 取り出す



さらに、防食性も最適で、濡れた状態でも腐食を効果的に防止します。Canyonアッセンブリーペーストは、カーボン製およびアルミニウム製の結合部すべてに使用することができます。硬化しないため、この用途に最適です。

Canyonアッセンブリーペーストを塗る前に、部品の表面の汚れや潤滑油の残りを取り除いてください。そしてきれいになった表面に、刷毛やセームタオルなどを使ってCanyonアッセンブリーペーストを薄く均一に塗ります。

ペーストを塗ったら部品を所定の位置に取り付けます。Canyonトルクレンチを使って、所定の最大締め付けトルクを絶対に超えないようにしてください。多すぎたCanyonアッセンブリーペーストは拭き取って、ペーストの袋をしっかりと閉じます。



保護材が入っている場合には取り出して、箱またはホイールバッグに入った前輪・後輪、小型パーツ箱、FITTING KITをBikeGuardから出します。



フレームをBikeGuardから慎重に持ち上げます。ハンドルの上部および前部についている保護材と、その下にあるフレームがスルーアックスルで固定されている段ボールも一緒に引き出すようにしてください。

**!** 梱包材とBikeGuardはすべてそのまま乾燥した場所に保管しておきましょう。そうすれば、自転車をどこかに送ったり、輸送したりする時に再利用できます。

**i** ホイールバッグが同梱されていないSpeedmaxモデルもあります。



フレームを保護材がついたままで静かに床に置きます。

## サドルとシートポストの取り付け



前方の段ボールからサドルおよびシートポストを取り外してから、前部の段ボールを完全に取り除きます。

シートポストをフレームに取り付ける前に、シートチューブに鋭い角や縁がまったくないことをよく確認してください。



固定装置を小型パーツのに入った箱から取り出します。方向に注意しながら固定装置をフレームに嵌入します。



シートポストに引っかき傷がつかないように、フレームにシートポストを差し込むのはMAXのマークまでだけにしてください。サドルの高さは後で細かく調整します。

シートポストは、圧力をかけなくてもスムーズにフレームに入らなくてはなりません。うまく入らない場合にはクランプをもう少し緩めてください。

**!** Canyon Speedmaxには特殊なエアロプロファイル形状のシートポストが備えられています。標準装備で同梱されているTRI CFシートポストは、シートポスト上端の張り出し部分が必ず進行方向の前方に向いている必要があります。



シートポストを再度抜き取ります。

ここで少量のCanyonアッセンブリーペーストをシートポストの下部と、フレームのシートチューブ内部、固定装置のシートポストに接する面に塗ります。



シートポストクランプ/固定装置の六角穴ボルトを廻して最大4Nmで締めます。



シートポストをご希望のサドルの高さに合わせてシートチューブに差し込みます。



シートポストのMAXマークが見えている状態では、絶対にCanyon Speedmaxに乗らないでください。

適正なサドルの高さについての詳細は「**適正なサドルの高さ**」の項をご覧ください。

⚠ これまで乗っていた自転車のボトムブラケットからサドル上端までの距離を測ってみましょう。新しいCanyon Speedmaxでもサドルの高さが同じになるよう調整します。

ⓘ Canyonのパーフェクト・ポジショニング・システム (PPS) を使えば、Canyonに試乗してみなくても、ご自分にぴったりのフレームサイズを選ぶことができます。PPSは弊社ウェブサイト [www.canyon.com](http://www.canyon.com) でご利用いただけます。

⚡ カーボン製の締め付け部分にグリスやオイルを塗らないでください。

### ホイールの取り付け



Speedmaxはフォークとリアエンドが保護用の段ボールに固定されています。ホイールを取り付ける前に、(前と下の)保護段ボールを取り外してください。



Speedmaxが倒れないようにしっかりと持ってください。リアエンドのスルーアクスルのリリースレバーを開けて、スルーアクスルを反時計回りに廻します。



リアエンドはスルーアクスルで保護段ボールに固定されています。



スルーアクスルのネジ山が外れたら、リアエンドからスルーアクスルを抜き取ることができます。



フォークはスルーアクスルで保護段ボールに固定されています。



スルーアクスルのネジ山が外れたら、フォークからスルーアクスルを抜き取ることができます。これでフレームを保護段ボールから持ち上げることができますので、次にホイールを取り付けます。

自転車作業スタンドを使うか、誰かに手伝ってもらって、簡単かつ確実に自転車を組み立てることができます。



Speedmaxが倒れないようにしっかりと持ってください。そして前輪のスルーアクスルを六角棒レンチで緩め、スルーアクスルを反時計回りに廻します。

 カーボン製のフレームやシートポストを作業スタンドのクランプに挟まないでください。パーツが破損する恐れがあります。フレームを内側から3点で固定する作業台や、フォークとボトムブラケットシェルで固定する作業台を使用してください。

### 後輪の取り付け



ディスクブレーキの場合には、輸送用のパッドスペーサーを抜き取ります。チェーンを後ろに引っ張って一番小さいスプロケットに掛けます。そしてホイールを後方からドロップアウト (Speedmaxのドロップアウトは水平方向になっています) に押し込みます。



それと同時にブレーキディスクがキャリアに入るようにしてください。



リアステイの間で後輪の位置を合わせ、左側から受けとハブを通してスルーアクスルを差し込みます。スルーアクスルを手で数回転時計回りに廻します。



アクスルのネジ山が右側リアステイのネジ山と嵌合したら、スルーアクスルをさらに時計回りに廻します。最初の数回転はスルーアクスルが楽に回らないといけません。

スルーアクスルのレバー外端を掴んで、廻すのに必要な力が強くなり、かなり力を入れても手の力ではもう回らなくなるまでレバーを廻します。但し、廻すために工具を使つてはいけません。



レバーをバネの力に逆らって外側に引き出します。レバーを引っ張っている間は、レバーを廻して所望の位置に方向を合わせることができます。

レバーが後方に突き出した状態ではいけません。レバーから手を放すとその位置で固定されます。

 取り付けに関する詳細はロードバイク取扱説明書「ホイール」の項をご覧ください。



後輪を取り付けてスルーアクスルを閉じたら、ブレーキレバーを引いてみてください。そしてブレーキレバーを再び開放します。自転車を持ち上げて、クランクを手で数回転回し後輪を回転させます。そうするとチェーンがカセットスプロケットの一段にきれいに嵌まります。また、その時にブレーキディスクがキャリアやブレーキパッドに擦れないことを確認できます。

#### 前輪の取り付け



ディスクブレーキの場合には、輸送用のパッドスペーサーを抜き取ります。前輪をフォークに嵌めてブレーキディスクがキャリアに入るようにします。両側の受けの間で前輪の位置を合わせ、左側から受けとハブを通してスルーアクスルを差し込みます。スルーアクスルを手で数回転時計回りに回します。



取り付けに関する詳細はロードバイク取扱説明書「ホイール」の項をご覧ください。



アクスルのネジ山がフォークの右側レグのネジ山と嵌合したら、スルーアクスルをさらに時計回りに回します。最初の数回転はスルーアクスルが楽に回らないといけません。その後アクスルをCanyonトルクレンチを使って15Nmのトルクで締めます。

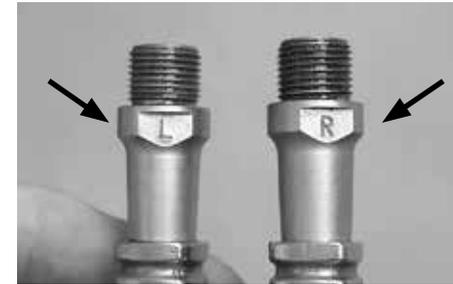


前輪を取り付けてスルーアクスルを閉じたら、ブレーキレバーを引いてみてください。そしてブレーキレバーを再び開放します。自転車を持ち上げて前輪を回転させてみます。その時にブレーキディスクがキャリアやブレーキパッドに擦れないことを確認します。



ホイールの取り付けが終わったら、停車状態でブレーキのテストを行ってください。ブレーキレバーには遊びが必要で、最大限に引いてもハンドルの手前で止まる必要があります。

#### ペダルの取り付け



ペダルを取り付けるには、まず軸に書かれている文字を見てください。Rと書いてあるペダルが右でLと書いてあるのが左のペダルです。左のペダルは左ネジで、ネジを締める時に回す方向が通常とは逆の反時計回りになっていますのでご注意ください。



最初の二三回は手でペダルをクランクのネジ穴にねじ込みます。それからペダルレンチを使ってペダルが固定されるまで回します。



ペダルをねじ込む前に、ネジ部分に軽くグリスを塗ってください。



必ず六角棒レンチで締め付ける必要があるタイプのペダルもあります。



ペダルの固定状態を100km走行後にもう一度確認してください。ペダルが緩んでネジ山を破壊してしまい、転倒の原因となる可能性があります。また、それ以外のボルトもしっかりと固定されているかどうか、締め付けトルク値に従って点検してください。

## SHIMANO Di2のバッテリーと充電器



あとは、ハンドル用の白いリフレクタとシートポストの赤いリフレクタ、スポークリフレクタを取り付けるだけです。



Canyon SpeedmaxではDi2のバッテリーはダウンチューブの下部に収納されています。バッテリーを取り外すことができるのはCanyonだけです。これに関するお問合せは弊社ホットライン (+81) 050-3786-8496 またはお問合せフォームをご利用ください。



Di2のバッテリー充電はジャンクションボックスにシマノ充電器を接続して行います。

ジャンクションボックスに接続するには、まず前輪を取り外す必要があります。そして、ステムのフロントカバーの下にあるボルトを3mm六角棒レンチで外します。

**⚠** バッテリー充電には必ず同梱の充電器を使用してください。他メーカーの充電器は、プラグがもしバッテリーに合ったとしても決して使わないでください。

**⚠** フレームサイズが小さい場合には特に、足が前輪に接触する恐れがあります。そのためできるだけビンディングペダルを使用してください。また、クリートの位置が適正かどうか確認してください。

**⚠** Speedmaxで公道を走る際には、その国の道路交通規則を遵守してください。

## SRAM ETAP/AXS ROAD



そしてステムのフロントカバーを外します。



SRAM eTAP/AXS Roadでは、リアとフロントのディレイラーにそれぞれバッテリーがあります。バッテリーは、BikeGuardに入っている小型パーツ箱に充電器と一緒に入っています。



こうすればDi2の充電器をジャンクションボックスに接続できます。

バッテリーの充電が終わったら、ステムのフロントカバーを元通りに取り付けてボルトを所定の締め付けトルク1.5Nmで締めます。

詳細はロードバイク取扱説明書の「シマノDi2」の項またはsi.shimano.com をご覧ください。



バッテリーの電気接点は赤いカバーで保護されています。このカバーをバッテリーから取ってください。

**⚠** カバーは保存しておきましょう。バッテリーを郵送する必要がある場合や輸行時に役立ちます。



バッテリーを同梱の充電器で充電します。



バッテリーの接点が上になるようにしてバッテリーを取り付けてください。



フロントディレイラーおよびリアディレイラーの電気接点は赤いカバーで保護されています。ロックを上を持ち上げて開き、このカバーを取ります。



ロックを再び閉じてバッテリーを固定します。ロックがカチッと嵌まるのを確認してください。

詳細はロードバイク取扱説明書および [www.sram.com](http://www.sram.com) をご覧ください。

 バッテリー充電には必ず同梱の充電器を使用してください。他メーカーの充電器は、プラグがもしバッテリーに合ったとしても決して使わないでください。

### 点検と調整



変速機の機能を確認します。ギアを全段切り替えてみます。リアの一番大きな歯車にチェーンが掛かっている状態で、ディレイラーがスポークに接触する可能性がないことを確認してください。

変速機の調節に関する詳細はロードバイク取扱説明書「**変速機**」の項をご覧ください。

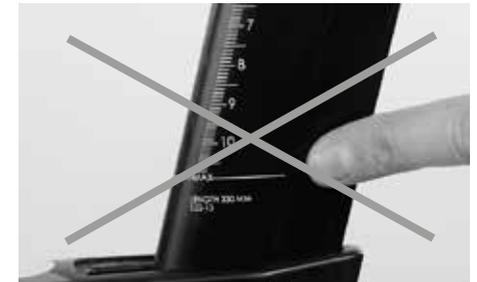
ホイールの取り付けが終わったら、停車状態でブレーキのテストを行ってください。ブレーキレバーには遊びが必要で、最大限に引いてもハンドルの手前で止まる必要があります。

 ディスクホイールの場合の変速機の調整にはある程度の経験が必要です。この作業は専門業者に依頼することをお奨めします。必要ならCanyon Speedmaxを専門の知識がある人にみてもらってください。どうしても自分でやりたいという方は、無理をせずに、十分な知識があり、必要な工具が揃っている作業のみにしてください。

 詳細はロードバイク取扱説明書の「**シマノ Di2**」の項または [si.shimano.com](http://si.shimano.com) および [www.sram.com](http://www.sram.com) をご覧ください。



「**Canyon Speedmaxの身体に合わせたフィッティング**」の項にある解説に従って、サドルとグリップの位置を調整し、ハンドルやグリップ、シートポストがしっかり固定されているかどうか確認してください。



 シートポストのMAXマークが見えている状態では、絶対にCanyonに乗らないでください。



不意に下車しなくてはならなくなった場合に怪我をしないよう、股下に十分な余裕があることをくれぐれも確認してください。

最後に、ロードバイク取扱説明書の「初めて乗車する前に」および「乗車前に必ず確認」の項にある点検作業を行ってください。

 組み立てと点検作業が終わったら、必ず平坦で車の通らない所（駐車場など）でCanyonの試乗を行ってください。組み立てや調整に問題がある場合、そのまま公道を走行すると、走行中に不具合が生じて自転車の操縦ができなくなり、不測の事態に至る恐れがあります。

## トライアスロン・タイムトライアルバイクに関する注意事項

エアロポジションが特に重要となるトライアスロンやタイムトライアルのため、Canyon Speedmaxには特殊なエアロハンドルが装備されています。

トライアスロンバイクでは、タイムトライアルバイクよりもいくらか上体を起こした乗車ポジションを選択するのが一般的です。

乗車ポジションに関する詳細は、「Canyon Speedmaxの身体に合わせたフィッティング」の項をご覧ください。

### タイムトライアル用のバーエンドシフター

エアロハンドルではシフトレバーがエアロバー先端についていて、ブレーキレバーはベースバー（プルホーン）の端にあります。エアロバーを握る姿勢で走っていると、ブレーキレバーが手の位置から遠く、反応時間が長くなって、制動距離も伸びます。常に危険の予測に努めながら走るようにしましょう。

ベースバーおよびアームレストの下のエクステンションの位置はお好みに合わせて調整できます。

楽に腕を乗せられるように、肘がアームレストよりもいくらか後ろにはみ出るようにしてください。



 トライアスロンバイクやタイムトライアルバイクは独特な走行性を有しています。まず人通りの少ない場所で自転車に乗って練習し、徐々にその走行性に慣れるようにしましょう。

 トライアスロンバイクやタイムトライアルバイクの乗り方は、経験豊富なトレーナーの指導に従って練習してください。

SpeedmaxにはShimano Di2またはSRAM eTAP/AXS Roadがシフティンググループセットとして搭載されています。

ギアの切り替えは、モノグリップ先端またはブレーキレバーについている操作ボタンを軽く押すだけです。

Speedmaxに搭載されたシフティンググループセットShimano Di2は、シマノ・シンクロシフトが有効になっています。左の操作ボタンを押すと軽いギアに、右の操作ボタンを押すと重いギアに切り替わります。

ディレイラーの切り替えは自動で行われません。この設定は、シマノの専用ソフトウェアで変更可能です。詳細は変速機メーカーの説明書をご覧ください。

操作ボタンの機能を入れ替えることもできます。そのためにはシマノの特殊な試験装置が必要で、故障の診断にもこの装置を使います。お問合せは弊社ホットライン(+81) 050-3786-8496 またはお問合せフォームをご利用ください。

シフティンググループセットSRAM eTAP/AXS Roadの特徴は、左右のボタンを同時に押すことでフロントディレイラーの操作をする点です。基本設定ではフロントディレイラーの切り替えは自動ではありませんが、アプリを使って設定できます。詳細は変速機メーカーの説明書をご覧ください。

どちらのシステムでも操作ボタンからシフト命令がディレイラーに伝達されます。するとディレイラーがシフトして、チェーンが隣のスプロケットに移動します。ギアの切り替え操作で重要なのは、チェーンがスプロケットの間を移動中は均一かつあまり力を入れずにペダルをこぎ続けることです。最近の自転車は、スプロケットに特殊なスライダが組み込まれているため、負荷がかかっている状態でもギアの切り替えには問題ありません。しかし負荷状態でのギアの切り替えによってチェーンの寿命は大幅に短くなります。



また、チェーンがチェーンステイとチェーンリングの間に噛み込む(チェーンサック)恐れもあります。ですから、ペダルに思い切り力を入れてこいでいる時にギアを切り替えるのはやめてください。特にフロントディレイラーの切り替えは禁物です。

 エアロハンドルで走行時は、停止するまでの距離が長くなりますのでご注意ください。ブレーキレバーがすぐ手の届く距離にありません。

 変速機メーカーの取扱説明書もご確認ください。

## カーボンホイールに関する注意事項

カーボンホイールには、炭素繊維強化プラスチックが使用され、優れたエアロダイナミクス特性と軽量性をその特長としています。

カーボンホイールに関する詳細や手入れについての注意事項はロードバイク取扱説明書の「カーボンホイールに関する注意事項」の項をご覧ください。



 ロードバイク取扱説明書の「カーボン素材の注意事項」の項にある注意事項も確認してください。

 カーボンホイールのブレーキ面には、ワックスやオイルがつかないようにしてください。

 カーボンホイールを搬送するには、ホイール専用のバッグに入れてから、ハードケースや段ボールに収納してください。

## CANYON SPEEDMAXの身体に合わせたフィッティング

(座る)姿勢が、Canyon Speedmaxの乗り心地やライダーのパフォーマンスを決めます。ですから、ご自分のCanyon Speedmaxのサドルとハンドルを、自分のニーズに合わせて精密に調整しましょう。

トライアスロン競技やタイムトライアルでは、空気抵抗が最小になるように乗車ポジションが設計されています。走るコースの距離や走行時間によっては、ハンドルが前方の低位置にあるこのエアロポジションが障害となって、返ってパフォーマンスが下がることがあります。

ですからサドル・ハンドル間距離やハンドルの高さ、エクステンション・アームレストの位置を調節する時には、その乗車ポジションでトレーニングやレースのコースを最後まで走りきれるかどうか、筋肉のこりや、体の動き・呼吸が制約されたり、無理な姿勢による痛みなどによってパフォーマンスに悪影響がでないかどうかよく考えてください。

そのためトライアスロンでは、殆どの場合コースが短距離のタイムトライアルよりも上体を起こした乗車ポジションを選択するのが一般的です。



**⚠** 次に解説する作業はどれも、経験と適切な工具、手先の器用さが必要とされます。不安な方は、位置の確認だけしておくのが賢明です。必要ならCanyon Speedmaxを専門の知識がある人にみてもらってください。

**⚠** 組み立てが終わったら必ず簡易テスト(「乗車前に必ず確認」の項参照)を行って、人のいない広場や道で試乗してみてください。そうすれば、落ち着いてすべてを再確認することができます。

**i** タイムトライアル競技に出場するには、サドルとエクステンションの水平位置に関して国際自転車競技連合UCIの規定がありますのでご注意ください。乗車ポジションを調節する時には、この規定を遵守するように注意が必要です。最悪の場合には競技失格となります。

走行時に危険な状況になってもCanyon Speedmaxを完全にコントロールでき、どのような状況でも操縦およびブレーキの操作に支障がないようにハンドルの位置を合わせてください。そのためには公道から離れた所や通行量がほとんどない道などで、十分に試乗を繰り返してください。

サドルやハンドル、エクステンション、アームレストの位置を変えると、乗車ポジションのその他のパラメータにも必ず影響しますのでご注意ください。必要に応じてその他の調整も修正して、安全で十分に乗り心地が良く、それでもエアロダイナミクスが最善の乗車ポジションをご自分のトライアスロン・タイムトライアルバイクで実現するようにしましょう。

### 適正なサドルの高さ

必要なサドルの高さは、ペダルをこぐ動作によって決まります。

**重要:**ペダルをこぐ時には、足の親指の付け根の拇指球をペダルの軸上に乗せるのが、よいこぎ方です。その状態で、クランクが一番下の位置にあっても、脚が伸びきった状態になってはいけません。サドルが高すぎると、この一番低い位置を通過するのが難しくなり、ペダリングの動きが丸くスムーズにならなくなってしまいます。サドルが低すぎると、膝の痛みの原因になります。ですから、次のような簡単な方法を用いて、サドルの高さをチェックしましょう。チェックには靴底が平らな靴を履いてください。



**i** 調節や点検を行う時には、その時だけSpeedmaxをサイクルトレーナーに固定して前輪を同じ高さにするのがよいかも知れません。そうすれば安全に乗車ポジションを試すことができます。鏡を見てチェックするのが簡単です。

サドルに座って、一番低い位置にしたペダルにかかとを乗せます。この状態では足が伸びきっている必要があります。腰が斜めに傾かないように注意してください。



サドルの高さを調整するには、トップチューブ上面のシートポストクランプについている六角穴ボルトを緩めます。

緩めたシートポストの高さを調整します。シートポストがシートチューブの中で簡単に滑らない場合でも、けっして無理な力をかけないでください。不明な点があったら弊社ホットライン (+81) 050-3786-8496 またはお問合せフォームをご利用ください。



シートポストについているマークよりも先まずでシートポストを引き出さないでください。

シートポストのクランプを締めます。その際にはトップチューブ上面のシートポストクランプについている六角穴ボルトを指定締め付けトルクである最大4Nmまで廻して締め付けます。

シートポスト取り付けに関する詳細は「**BikeGuardから取り出して組み立てる**」の項をご覧ください。

これで足の伸び方がよくなったかどうか、再度確認しましょう。足をペダルの最適な踏み位置にもってゆきます。拇指球がペダルの中央にある時には、膝は軽く曲がった状態になってなければなりません。そうならないと、サドルの高さは適切です。

**⚠** シートポストがMAXマークの線よりも引き出された状態では、絶対に自転車に乗らないでください。シートポストが折れたり、フレームが損傷する恐れがあります。

**⚠** カーボン製フレームのシートチューブには、グリスを絶対に塗らないでください。カーボン製コンポーネントに一度グリスがついただけでも、確実な締め付けがまったくできなくなる場合があります。

**⚠** 締め付けトルクを少しずつ(0.5Nmずつ)規定の最大締め付けトルクまで上げてゆくようにして、こまめにコンポーネントが確実に固定されているかどうかを確認してください。Canyon指定の最大締め付けトルクを超過しないようにしてください。

**⚠** シートクランプのボルトを強く締めすぎないようにご注意ください。ボルトを締めすぎるとシートポストやフレームが破損する恐れがあります。**事故の危険があります。**

### サドル・ハンドル間距離とサドルの調整



サドルの前後方向の位置は、広い範囲で自由に変えることができます。そのために四種類の調整方法が用意されています。

- ▶ サドルクランプ内でサドルレールをスライドさせる
- ▶ サドルクランプの前後の穴を選択してサドルレールを固定
- ▶ シートポストの長穴内でサドルクランプを水平方向にスライドさせる
- ▶ シートポスト上でサドルクランプを180°回転させる

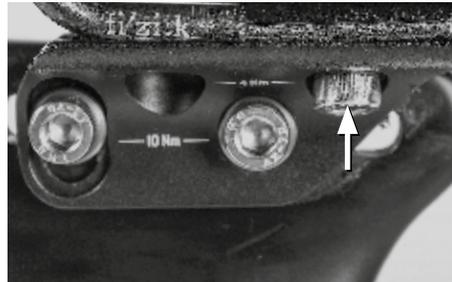
サドルクランプの回転を初めとする各種の調整方法により、ボトムブラケットの中心との距離を0mm~85mmの広い範囲で調節可能です。

但し、シートポスト上でサドルの前後位置を変えると、ペダルの踏み方も変わってきます。

サドルが前後に移動することで、ライダーがどの程度後方からペダルを踏むかが変わってきます。



まずサドルクランプの水平方向に配置された二本の六角穴ボルトを二～三回転廻して緩めます。もう一本六角棒レンチを使って反対側でボルトをpushさえておくとも良いかも知れません。



調整可能な範囲が足りない場合は、両側のほぼ垂直方向のボルトをさらに緩めてください。サドルクランプ内でサドルレールをスライドさせます。



それだけではサドルクランプがまだ動かない場合には、両側のほぼ垂直方向のボルトも少し緩めますが、その時にサドルがサドルクランプ内で動いてしまわないようにします。

そうするとサドルがサドルクランプと一緒にシートポスト上を水平方向に動くようになり、角度もお好みで調節できます。

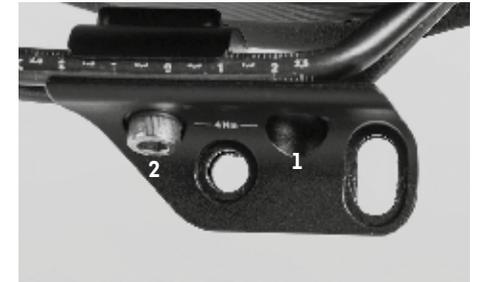


シートポストのクランプがサドルレールの規定の範囲内に位置していることを確認してください。規定範囲のマークがサドルレールについていない場合には、必ずサイドレールの直線部分に固定するようにして、前後の湾曲部には絶対に固定しないでください。**折れる危険があります。**

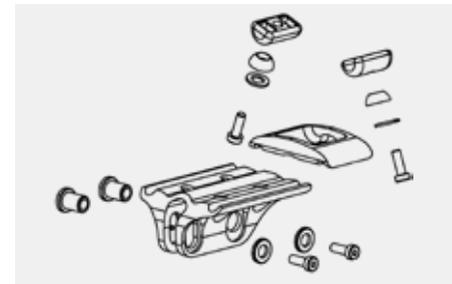


それでもまだ調整可能な範囲が足りない場合には、水平方向に配置された二つの六角穴ボルトを緩めて完全に抜き取ります。シートポストクランプをシートポストから外し、180°回転させて付け直します。

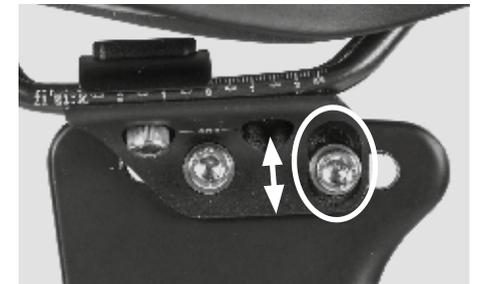
さらにサドルも回転させる必要があります。



更なる選択肢として、サドルクランプボルトを留めるネジ穴がサドルクランプの前(1)と後ろ(2)に二つあります。サドルを固定する時には、上のホルダーがサドルレールに嵌まっていることを確認してから両側の六角穴ボルトを規定の締め付けトルクである4Nmで締めます。



サドル、クランプ、レールを新しいポジションで組み立て直します。六角穴ボルトの取付時には、ナット、スペーサーワッシャ、ボルトの順番を間違えないように注意して、サドルクランプがまだ動く程度までの締め付けにしておいてください。



最後にサドルの角度を調整します。角度が決まったら下の二本のボルト、即ち水平方向のボルトを均等に締めてサドルの角度を固定します。トルクレンチを使用してください。シートポストが8Nmではまだしっかりと固定されていない場合には、少し(1/2Nm)ずつトルクを上げて最大10Nmまで試してみてください。このトルクは絶対に超えないでください。

適正なハンドルの高さ



サドルを水平または前方に軽く傾斜させて調節します。サドルが前方に傾きすぎていると、リラックスした状態でペダリングできません。常にハンドルで身体を支えていないと、サドルから滑り落ちてしまうからです。

ボルトを締めたら、サドルの前後両端をつかんで交互に力をかけてみることで、サドルが傾かないか確認してください。



ハンドルの高さおよびステムの長さによって上半身の傾斜角度が決まります。ハンドルの取り付け位置が低くかつ/または前方であるほど、上半身が前に傾斜することになります。



その方がライダーの受ける空気抵抗が減り、前輪に体重をかけることができますが、強い前傾姿勢は体力を消耗し、手首や腕、上半身やうなじへの負担が増すため乗り心地も悪くなります。

**⚠** 交換用ヘッド付のトルクレンチを使用し、最大締め付けトルクを超過しないようにしてください。

**⚠** シートポストがMAXマークの線よりも引き出された状態や、サドルが規定範囲にクランプされていない状態では、絶対に自転車に乗らないでください。シートポストやサドルレールが折れたり、破損したりする恐れがあります。**転倒の危険があります。**

**⚠** 月に一度は、ボルトの固定状態がコンポーネント自体に表示またはロードバイク取扱説明書の「推奨締め付けトルク」の項に記載の規定締め付けトルクになっているか、トルクレンチで確認してください。

**i** 風洞試験の結果では、最も低い位置が必ずしも最速ではないことがわかっています。最適な乗車ポジションを調整・特定するためのサポートが必要な方は、最寄りのフィッティングサービスをご利用ください。

エクステンションとアームレスト

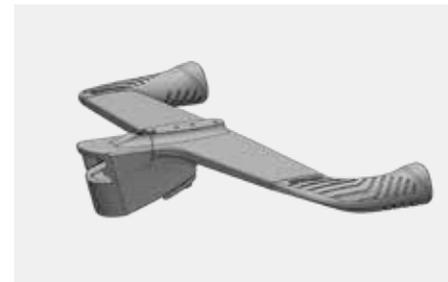
Canyon Speedmaxのコックピットは、様々な方法で調整・変更できます。また、各種サイズおよび仕様のコンポーネントが用意されています。それを様々な組合せで取り付けることができます。

お客様のSpeedmaxにはお客様が選んだコックピットコンポーネントが搭載されています。これは予めサービスセンターがお客様の前腕長に合わせて選んだものです。

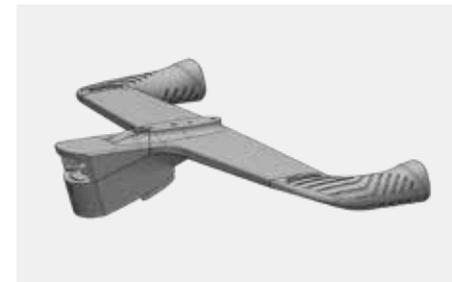


ベースバーは二種類の長さとし二種類の高さ、モノエクステンションは三種類の長さが基本仕様となっています。

ステム付ベースバー



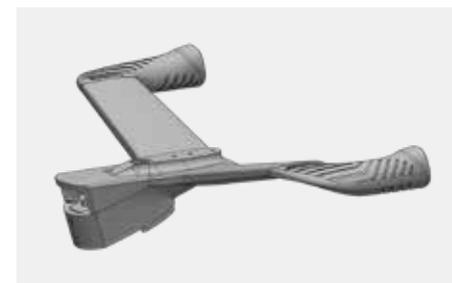
ベースバー ショート/フラット



ベースバー ロング/フラット



ベースバー ショート/ライズ

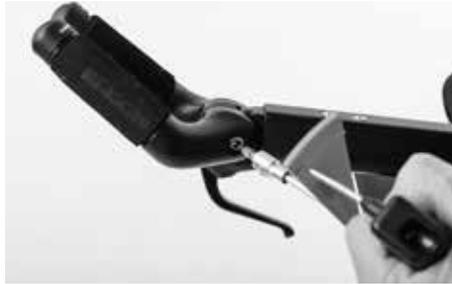


ベースバー ロング/ライズ

ロングバージョンの長さは75mmです。ショートバージョンの長さは55mmです。

フラットとライズの高低差は40mmあります。

モノグリップ



モノグリップの長さは二種類あります。lh/rhショートとlh/rhロングの二種類の対グリップになっています。

取り付けられた状態では、角度の調節が可能です。ボルトを二〜三回転緩めて、両側のモノグリップを適宜調節してください。表示されているトルクでボルトを締め直します。

エアロバー



エアロバーはテレスコープ式で、ショート・ミディアム・ロングの三種類の長さがあります。

**!** ベースバー、モノグリップ、エアロバーの交換は必ずCanyonにご依頼ください。ハンドルや乗車ポジションに納得がゆかない場合には弊社ホットライン(+81) 050-3786-8496をご利用ください。

**!** 詳しくは弊社の公式ウェブサイト [www.canyon.com](http://www.canyon.com) をご覧ください。またはお問合せフォームをご利用ください。

FITTING KIT

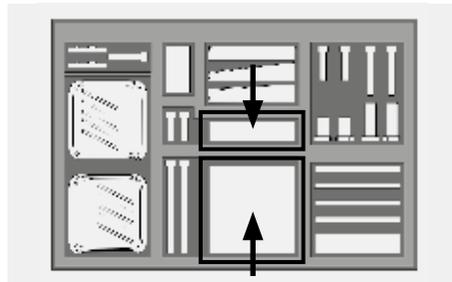


SpeedmaxにはFITTING KITとそれに付属するFITTING KITマニュアルが同梱されています。

FITTING KITに含まれるパーツを使えば、モノエクステンションとアームレストの高さと傾きをライダーに合わせて調整できます。また、グリップ同士の間隔を変えることもできます。

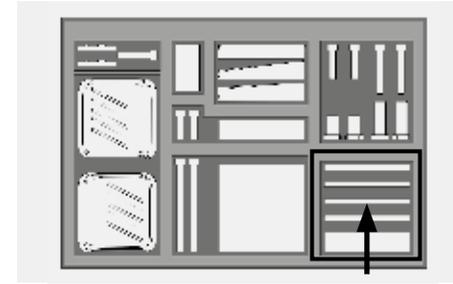
エクステンションとアームレストの調整

エクステンションの高さと傾き、またアームレストの水平位置は、同梱のスペーサーの配置を変えることで調整できます。

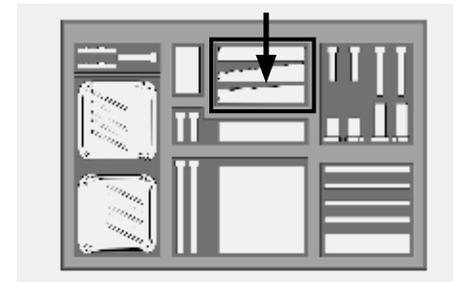


メインの高さは中央に位置するベーススペーサーによって決まります。ベーススペーサーは、ロー(20mm)・ミディアム(65mm)・ハイ(90mm)の三種類の高さがあります。出荷時にはミディアムのベーススペーサーが取り付けられています。残りの二つがFITTING KITに入っています。

小さな4mmピンを必ず合わせて使用する必要がありますのでご注意ください。



最大40mmまでの更なる高さ変更が、四つの5mmスペーサーと一つの20mmスペーサーによって可能になっています。これらのスペーサーもFITTING KITに入っています。



高さの変更に加えて、モノエクステンションの傾きも変えることができます。



高さおよび傾きの調整を行うには、まずカパーを取り外す必要があります。



モノエクステンション固定ボルトの頭の下には、必ず球面状のワッシャをつける必要があります。このワッシャを決して取り外さないでください。ボルトの頭に接する面が平坦でなくなってしまう。

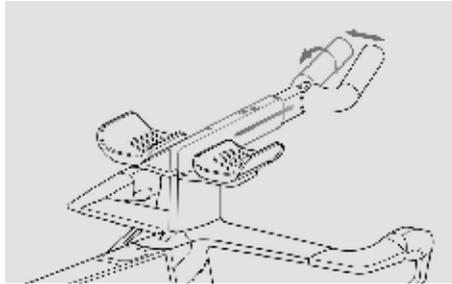
ボルトをトルクレンチを使ってFITTING KITマニュアル記載の締め付けトルクで締めます。



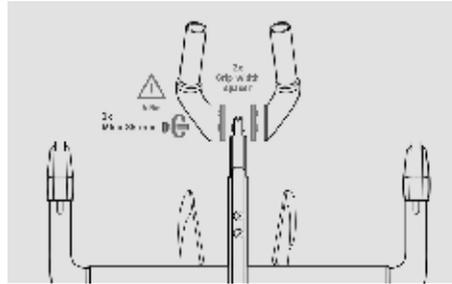
スペーサーとベーススペーサーの様々な組合せ方についてはFITTING KITマニュアルをご覧ください。

**!** ハンドル周りの各ボルトは、走行距離が100〜300kmに達したら必ず、コンポーネント自体に表示またはFITTING KITマニュアルに記載の規定トルクになっているかどうかトルクレンチで点検してください。

モノグリップの調整

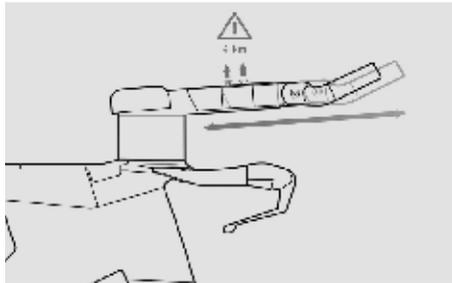


モノグリップは角度を調節できます。左右のグリップは小さなスペーサーで連結されているため、常に同じ角度にする必要がありますのでご注意ください。グリップごとに異なる角度にすることはできません。



FITTING KITにはグリップ同士の間隔を広げることができるグリップ幅スペーサーが含まれています。グリップ幅スペーサーの使用時には、同梱の長めのボルトを使ってください。

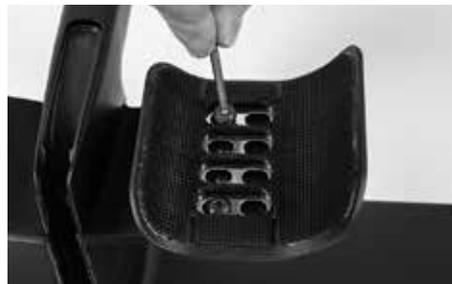
アームレストの位置変更



また、モノグリップの位置は、モノエクステンション内を水平方向にスライドさせて長さを変えられます。そのためにはまず皿頭ボルトを二本とも外す必要があります。可変範囲は前後方向に限りがあります。



アームレストの位置を変えたい場合には、まずアームレストからパッドを取り外してください。



そして両側にそれぞれ二本ある固定ボルトを外します。



アームレストは、縦方向に三通り、横方向には二通りの異なる位置に取り付けることができます。



二本の固定ボルトをできる限り離してネジ穴に差し込み、指定締め付けトルクの2.5Nmまで締めます。

アームレストがしっかりと固定されているか点検しましょう。

最後にマジックテープになっているパッドをアームレストにつけます。試乗して乗車ポジションを確認してください。



また、水平面内のアームレストの角度も、長穴内のボルト位置によって一定の範囲内で変えられます。



FITTING KITに入っているスペーサーに交換して高さおよび傾きの調整を行うには、まずカバーを取り外す必要があります。

**⚠** アームレストの取り付け位置を決める際には、必ずアームレストごとに二本の固定ボルトが一直線上に並ぶようにしてください。折れる危険があります。

## ステアリングヘッド



走行中やブレーキ時にSpeedmaxからカタカタと音がする場合には、ステアリングヘッドを点検してみましょう。ロードバイク取扱説明書の「ステアリングヘッド」の項の説明に従って、外からは見えない位置にあるステアリングヘッドの点検を行います。



次にステムの上についているカバーを外します。このカバーはクリップ式で着脱できます。左右の側面を外側に広げながらカバーを上を持ち上げてください。ハンドルを切ると外しやすくなります。



軸受の遊び調整ボルトに触れるには、まずモノエクステンションとスペーサーの間のガイドからドリンクチューブを外す必要があります。ハンドリングしやすいようにハイドレーションパック全体を外してしまうのが最善策です。「インテグレートッドハイドレーションシステム」の項参照。



ハンドルを右か左に切ります。二本のクランプボルトを少しずつ交互に緩め、ステムの下にあるクランプリングも緩めます。リングを緩めるにはT6トルクスドライバー（小型パーツ箱に入っています）を左側からあてます。どのボルトも二～三回転だけ反時計回りに廻して緩めてください。完全に抜き取らないでください。

 ステアリングヘッドの調整にはある程度の経験が必要ですので、この作業は専門業者に依頼することをお奨めします。必要ならCanyon Speedmaxを専門の知識がある人に見てもらおうか、弊社のホットラインまたはお問合せフォームをご利用の上お問い合わせください。

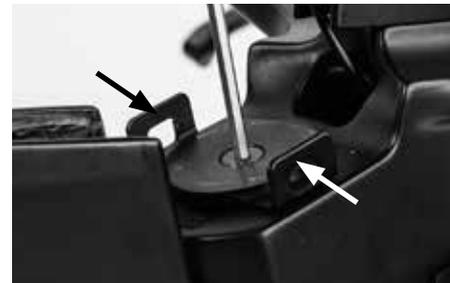
 緩めたクランプボルトのネジ山がステムから突き出していて見えるようだと、緩めた状態でハンドルを切ったときにフレームにぶつかってしまいます。



センターの調整ボルトを3mmの六角棒レンチで力を加減しながら時計回りに廻します。最初は半回転ずつ廻してゆきましょう。



ステアリングヘッドが滑らかに回ることを確認するには、前輪を持ち上げてスムーズに動くかどうかを確認めます。持ち上げた状態で中央位置のハンドルを指で軽くたたいただけで前輪が横に回転するような状態ではなくはなりません。



ベースプレートの両側のホルダー部分が回転してしまわないように注意してください。

そして遊びをまた確認します。まだ緩いようであればもう一度半回転だけ廻して、再度遊びを確認します。軸受の調整がきつすぎないようにしてください。

ヘッドセット調整の最大締め付けトルクは2Nmです。

 この調整ボルトを硬く締めてしまわないでください。これは軸受の遊びの微妙な調整を行うためだけにあるボルトです。



クランプリングのT6ボルトを規定の締め付けトルクで締め直します。

ハンドルを右か左に切ります。トルクレンチを使い二本のクランプボルトを少しずつ交互に5Nmで締めます。規定の最大締め付けトルクを超過しないようにしてください。

最後にカバーをステムの上に付け直します。

## インテグレートド ハイドレーションシ ステム

### インパクトプロテクションユニット (IPU)



Canyon Speedmaxには、インパクトプロテクションユニットないしIPUと呼ばれる押さえがっています。

このIPUは、ハンドルやハンドルについている各種装備がトップチューブにぶつかることを防止するためのもので、ハンドルの可動範囲を $\pm 70^\circ$ に制限します。

IPUはステアリングヘッド下部にあり、フォークが取り付けられた状態では外からは見えません。

**!** 交換には経験が必要ですので、必ずCanyonにご依頼ください。弊社ホットラインにお問合せになるか、お問合せフォームをご利用ください。

**!** IPUをつけずに走行すると、ハンドルやハンドルについている各種装備がトップチューブにぶつかる恐れがあります。フレームが損傷することがあります。



Canyon Speedmaxに同梱のインテグレートドハイドレーションシステムを搭載することもできます。

このシステムではダウンチューブの中にハイドレーションパックを収納し、700ml (フレームサイズM以上) または500ml (フレームサイズXSおよびS) の水を充填できます。



水の充填にはハイドレーションパックを必ずしも取り外す必要はありません。トップチューブに備えられたクイックフィルポートからハイドレーションパックの充填が可能です。

**!** このドリンクシステムは水専用です。水以外のミックスドリンクの使用についてCanyonは一切の保障をいたしません。



ウォーターボトルの口を直接クイックフィルポートにあてて、ボトルを押して水をハイドレーションパックに流し込むと充填が一番スムーズにできます。

充填するためには、インテグレートドハイドレーションシステムのバルブに力をかけて完全に下に押し込む必要があります。

### ハイドレーションパックの取り外し

洗浄および乾燥のためにハイドレーションパックをダウンチューブから取り外す必要があります。取り出すにはハイドレーションパックを空にしておく必要があります。ハイドレーションパックを空にするには、Speedmaxを逆さまにしてバルブを押すという方法もあります。



モノエクステンションとスペーサーの間のガイドからドリンクチューブを引き出します。



まず、ステアリングヘッドの上のカバーを外します。

そしてフレームのトップチューブについている蓋 (通称ベントボックス) を開けます。ハイドレーションパックのホルダーの小さなボタンを押します。そして小さなボタンを押してハイドレーションパックのホルダーをフレームのロックから解除します。



これでハイドレーションパックをクイックフィルポートおよびドリンクチューブと一緒に慎重に取り外すことができます。

**!** ハイドレーションパックには内側に硬い部分があり、この部分を利用することでシステムのフレームからの着脱がしやすくなっています。



ハイレーションパックを再び取り付けるには、逆の手順で作業してください。

ハイレーションパックを内側の硬い部分に沿ってフレームに挿入するようにしてください。最後にハイレーションパックをホルダーごとフレームに嵌め込みます。

しっかりと収まるようにドリンクチューブからハイレーションパックに空気を吹き込んでください。

#### ハイレーションパックの洗浄

洗浄には市販の洗浄タブレットを使うことができます。

- ▶ 洗浄タブレットを水に溶かします。
- ▶ その洗浄液をハイレーションパックに入れます。
- ▶ ハイレーションパックを振ってください。
- ▶ 洗浄液を捨てます。
- ▶ きれいな水でもう一度洗います。

詳しくは [ww.hydrapak.com](http://ww.hydrapak.com) をご覧ください。

 ハイレーションパックは、走行の度に空にして洗浄し、必ず乾燥させてください。

 十分に洗浄・乾燥を行わないと、ハイレーションパックの中に有害な細菌やカビなどが発生することがあります。吐き気や健康の障害につながる恐れがあります。

## インテグレートド トップチューブベ ントーボックス



Canyon Speedmaxには標準仕様でインテグレートドトップチューブベントーボックスが装備されています。このスペースには補給食(エネルギーバー、ジェル等)や工具などを入れておくことができます。

トップチューブベントーボックスの蓋の上に座らないでください。蓋が破損することがあります。

 トップチューブに座ったり、特にトップチューブベントーボックスの蓋の上に座ったりしないでください。

## インテグレートド ボトムブラケットス トレージ



インテグレートドボトムブラケットストレージ(BBはボトムブラケットの略)にはパンク修理に必要なアクセサリを収納することができます。

左のクランクアームが低い位置(「6時位置」が最適)に来るように廻します。

カバーは工具なしで外すことができます。両手の親指でカバーを押し、後輪の方向にスライドさせるのが一番簡単です。そうするとカバーが外れます。



インテグレートドボトムブラケットストレージ収納アイテム: 1対のタイヤレバー、CO<sub>2</sub>カートリッジ用バルブ1個、交換用チューブ1本(2個までのCO<sub>2</sub>カートリッジは各自購入)



カバーをフレームに取り付けるには、カバーを少し後方にずらして嵌めてから前方にスライドさせます。

カバーがしっかりと留まるのが手で感じられるはずですが。

## その他のアクセサリ

### トラボトルアダプター



このアダプターを使うとサドルの後ろ/下に1~2個のボトルケージを取り付けることができます。取り付ける前にシートポスト裏側のゴムカバーを外してください。指定の締め付けトルク3Nmで固定ボルトを締めます。



ボトルケージをアダプターにつけて二つあるアダプターのネジ穴にそれぞれ固定ボルトを差し込んで指定の締め付けトルク3Nmで締めます。



その代わりに「トライアスロンボトルアダプター30度」や「トライアスロンツインボトルアダプター」も使用でき、(掴みやすいように30度向きを変えた)ボトルケージまたは2個のボトルケージを取り付けることができます。この場合も固定ボルトの規定締め付けトルクは3Nmですのでご注意ください。

## 瑕疵担保責任

お客様の自転車は、細心の注意を払って製造し、大部分を予め組み立てた状態でお引き渡ししております。弊社は法律に従って、お客様の自転車に、その価値や有用性を無くしたり、大きく減じたりするような瑕疵がないことなどに対する責任を負うものです。ご購入後2年間は、法律に定められた保証の完全な請求権がお客様にはあります。瑕疵が発生した場合には、弊社記載の住所にご相談ください。

お客様からのご苦情にできる限りスムーズに対応させていただけるように、購入証明書をお手元にご用意いただく必要があります。そのために購入証明書は大切に保管しておいてください。

お客様の自転車の寿命と耐用期間が長く持続するためには、お客様が自転車をその用途(「意図される使用」の項参照)に従ってのみ使用することがその条件となります。また、**最大許容総重量**や荷物・子供の輸送に関する規定(「意図される使用」の項記載)を遵守してください。さらに、各メーカーの取り付けに関する規定(ボルトの締め付けトルクなど)および所定の整備頻度を厳密に遵守する必要があります。本説明書およびその他の付属説明書に記載されている検査および作業(ロードバイク取扱説明書の「点検・整備頻度」の項記載)および状況に応じて必要となる、ハンドルやブレーキなどの安全に関わるコンポーネントの交換を行ってください。

お客様の自転車でのライドが常に良いものとなりますように。何かご質問がございましたら、弊社のホットライン(+81) 050-3786-8496 またはお問合せフォームをご利用ください。



常に所定の用途に合わせて自転車を使ってください

**i** 各コンポーネントメーカーの取扱説明書が付属しています。その中に使用・整備・手入れなどに関する詳細が記載されています。本説明書では各所で、該当する詳細な説明書の参照を促しています。ビンディングペダルや変速・ブレーキ関連のコンポーネントなどの各種説明書をなくさないように、本冊子およびロードバイク取扱説明書、FITTING KIT マニュアルと一緒に大切に保管しておいてください。

**i** カーボンは、軽量化設計に使用される複合材料です。その製造工程の性格から、表面に乱れ(小さな気泡や孔)が生じるのは避けられません。これは瑕疵にはあたりません。

### 摩耗と劣化について

自転車の部品には、その機能に起因する摩耗や劣化が生じるものがあります。摩耗や劣化の程度は、自転車の手入れと整備、そして使い方（走行距離、雨天走行、ゴミ、塩分など）によって変わってきます。屋外に駐輪することの多い自転車も、気候の影響を受けることにより、摩耗や劣化が早く進行することがあります。

該当するパーツは定期的な整備と手入れが必要ですが、使用の頻度や条件に応じて、いつかは寿命の限界に達します。

下記の項目は、劣化寿命の限界に達したら交換が必要です。

- ▶ チェーン
- ▶ ケーブル
- ▶ ハンドルグリップおよびバーテープ
- ▶ チェーンリング
- ▶ スプロケット
- ▶ リアディレーラーのプーリ
- ▶ シフトケーブル
- ▶ タイヤ
- ▶ サドルの上皮(レザー)
- ▶ ブレーキパッド
- ▶ バッテリー
- ▶ ハイドレーションパック
- ▶ ブレーキフルード
- ▶ チューブ



## 保証

弊社では法律で定められた保証期間を超える全6年間の保証をロードバイクおよびトライアスロンバイクのフレームとフォークについて自主的に行っています。

弊社の保証は、ご購入日から始まり、その自転車を最初に購入した人についてのみ有効です。塗装の損傷は保証の対象とはなりません。弊社は、不具合のあるフレームやフォークの修理または適切な後続モデルとの交換のいずれかを行う権利を留保します。これ以外の保証を請求することはできません。組み立てや運送などのこれ以外の費用は、弊社では負担しかねます。

怠り(不十分な手入れと整備)や転倒、過負荷など、不適切な使用や意図されていない使用による損害およびフレームまたはフォークの変更または追加コンポーネントの取り付けや改造による損害は、保証の対象外となります。ジャンプやその他の過度の負荷がかかった場合も、保証を受けることはできません。



6年間保証

 Canyonのロード/タイムトライアル/トライアスロンバイクやトラックレーサーは、ハイエンドのスポーツ用製品です。最高の技術力を駆使した軽量構造が採用されています。あなたも、自転車の取扱のプロになってください。誤った使用や、不適切な組立、不十分な整備などは、レース用マシンである自転車の安全性を損なうことがあります。**事故の危険があります。**

## クラッシュリプレースメント

事故に遭ったり激しく転倒してしまったりすると、フレームやフォークに大きな力がかかって破損し、機能を損なうことがあります。クラッシュリプレースメント (CR) は、破損してしまったCanyonのフレームを優待条件で交換することのできるサービスです。このサービスはご購入日から3年間ご利用いただけます。お使いのものとじまたは現行ラインナップの同等のフレーム (シートポストやフロントディレイラー、ステムなどの取り付けパーツは含まれません) をご用意します。

CRサービスは、自転車の最初の所有者のみに限定され、機能を損なう破損のみを対象としています。弊社は、個別のケースにおいて、破損を故意に生じさせたことが判明した場合には、本サービスを停止する権利を留保します。

CRサービスを受けるには、弊社の電話窓口 (+81) 050-3786-8496 かオンラインお問合せフォームを使って弊社サービス部門にご連絡ください。

詳しくは弊社の公式ウェブサイトをご覧ください。[www.canyon.com](http://www.canyon.com)



クラッシュリプレースメント — 破損したCanyonのフレームを優待条件で交換

 「意図される使用」の項に記載されている注意事項を守ってください。

Canyon Bicycles GmbH  
Karl-Tesche-Straße 12  
D-56073 Koblenz